



日本バプテスト病院の今とこれから

あまかわ りゅういち
日本バプテスト病院 副院長 尼川 龍一

日本バプテスト病院は昨年の電子カルテシステムの導入、そして新病棟完成を経て装いも新たに生まれ変わっております。常勤医師の獲得にも取り組み、現在では総勢 35 名となっております。診療部門では、本年 4 月に着任後私の専門領域である血液内科も新たに標榜させていただいております。さらに白血球減少など免疫不全状態にある患者さんを感染症から守る無菌病室を近く設置する予定です。

このように当病院ではハード・ソフトの両面を整備することにより、機能的には従来にも増してより柔軟にそして迅速に急性期疾患に対応できるよう努めています。その目的は当病院の基本方針にも謳われていますように私たちが「地域医療ネットワークに貢献」し、診療所の先生や介護関連施設の皆様の期待に応

えられる地域の中核病院としての役割を担うことでもあります。そのためには医師、看護師、リハビリスタッフ、緩和ケアスタッフ、薬剤師、栄養士、ソーシャルワーカー、牧師室スタッフなど多職種間のチームワークを基盤とする質の高いチーム医療が不可欠であると考え日々その実践に努めています。一人一人の患者さんに肌理の細かい包括的な医療を行うことにより当病院が創立以来目指して来た「全人医療」を実現できるものと考えております。

私たち職員一同、皆様との連携をさらに深めて地域に根ざしたより良い医療を提供できるよう全力を尽くす所存です。今後ともご指導・ご支援の程よろしくお願い申し上げます。

Relay Column

バプテスト リレーコラム vol.5

3階東病棟

いながき ようこ
師長 稲垣 洋子



3階東病棟は、産婦人科・小児科・GCU（新生児回復室）を中心とした病棟です。空床に応じて、内科・外科・整形外科の女性の方も入床されています。

スタッフは、助産師・看護師・看護補助者・クラークが所属し、産婦人科医師・小児科医師と協力して病棟運営を行っています。

産科については、安全第一を目標に14名の助産師が配置され、サポートを行っています。助産師の専門性を活かした助産師外来・マタニティヨガ・母親教室を通じて安全なお産に取り組んでいる他、産後も2週間健診・母乳外来（外来助産師担当）を行い、産前産後の一貫したケアを実現しています。特にマタニティヨガは好評で、妊婦さんの要望に応え、8月からクラスを増やし対応しています。

出産は出来るだけ自然分娩を心がけ、分娩時にご家族の立会いをお勧めしています。分娩室はLDR機能（陣痛が始まってから、お産後数時間までの間を移動せずに過ぎて頂けるお部屋）の3室を持ち、出生直後にカンガルーケアに取り組んでいます。産後は原則、個室で母児同室で過ぎて頂き、入院中の母乳保育指導を積極的に進めています。

昨年の分娩件数は399件で、今年度から開始されたエコチル調査の協力病院として参加しています。また、同じフロアーにあるNICUスタッフと連携し、京都の周産期センターの空床状況に登録し、他施設からの緊急の母体搬送やハイリスク妊婦さんを受け入れ、地域の周産期医療の充実に努めています。

小児科では赤ちゃんや子供さんのサインを的確に受け取り、それぞれに適した看護の提供を心がけています。さらに、安全と安楽が少しでも図れるように侵襲性の少ないケアを行う努力をしています。お子さん一人一人を尊重し、成長・発達段階に応じた療育環境やケア過程が調整できるように考えて行きたいと思えます。



産科・小児科・他科との混合病棟は大変なことも多くありますが、感動や嬉しい場面にも立ち会い、やりがいを感じています。今後も育児支援や個々の方の状況に応じた看護を提供できる病棟を目指して、努力したいと考えます。

ステンドグラス グラスのかけら

聖書のことば～語りかける魂のことば 第5回

Stained Glass

牧師・チャプレン
はまもと きょうこ
浜本 京子



勇気にもハードとソフトがあるらしい。河合隼雄氏のエッセイで見つけた。

勇気のハード面とは、恐ろしいと感じるものに立ち向かう行為そのもの、ソフトとはそのハードを動かすための、こころの活動である。

勇気にはまずソフト開発が必要だという。

たとえば時に自分の弱さやもろさに向き合ってみたり、ちゃんと「ごめんなさい」を伝えたり、家族にあらためて「ありがとう」といってみる。

「勇気に支えられていない『優しさ』」はどうしても弱さに近づく。

ハードとソフトという両面を持っていない勇気は、『怒気』ともいうべきものに下落すると書かれてあった。

病からくる苦しみであれ、世の無理解であれさらされ続けると、

わたしたちは生きる気力を失い、前進する勇気を失うものだ。

無理して立ち向かうと体や心が壊れてしまう。

このイエスの言った「勇気」とは、「安心・信頼・心強さ」を意味している。

怖気づいて動けなくなった者に、「安心しなさい」「信頼しなさい」と呼びかける。

もう一度信じることを教える。

勇気は、信じ続けるこころのしなやかさから生まれてくるのかもしれない。

それは一つのやさしさとなって、今度は苦しむ者を真に助ける勇気となる。

あなたがたには世で苦難がある。しかし、勇気を出しなさい。私は既に世に勝っている。

ヨハネによる福音書
16章33節

医療者の悲嘆とサポート

看護師として、死に直面し苦悩している患者の看護の経験から、医療者、特に看護師の悲嘆に関心を持ってきました。臨床現場では、第一線で働く多くの看護師が「なにも出来ない」、「もっとこうすれば良かった」といった、死に直面している患者との関わりから困難感や閉塞感を抱いていました。

これまで、いくつかの研究結果の中から医療者の悲嘆について大切な提案がなされてきました。終末期の患者が抱く苦悩や患者の死、さらに家族の悲嘆や怒りなどの感情を目撃する医療者は、その経験を通して医療者自身が悲嘆を感じたり、過去に経験した悲嘆が呼び起こされる可能性があります。多くの医療者は悲嘆を表現することと、表現しないことの狭間で揺れていますが、このよう

な状況をPapadatou et al.,(2002)は、「医療者自身が自分の悲嘆を表現することを避け続けるならば、悲嘆の蓄積が起りバーンアウト（燃え尽きる）につながる」と報告しています。

全人医療を目指すホスピス、緩和ケアにおいて、看護師の果たす役割はとても大きいと考えます。看護師は、患者の全人的ケアを実践すると同時に、自分自身のセルフケアの方法も学ぶ必要があります。それと同時に、スピリチュアルケアについての理解を深めたり、自己の死生観を探究していけるような教育が提供されることが急務と考えます。

まつむら ゆうこ
看護部長室付 副主任 松村 優子

新任ドクター紹介

かぶらぎ あつし
消化器内科部長 鍋木 淳志



9月1日より着任しました消化器内科医の鍋木淳志です。胃カメラや大腸内視鏡など苦痛を伴う検査を極力楽に受けて頂くよう心がけて行きたいと思っております。

(2011年9月1日着任)

イベント報告

日本バプテスト病院 7月のチャペルアワー

7月20日(水)の午後、『琵琶湖マンドリンアンサンブル』の皆さん11名をお迎えし、演奏を聴かせていただきました。いろいろな大きさのマンドリンとギター、コントラバスの素晴らしいアンサンブルに、時の経つのも忘れるほどでした。

参加者
51名



イベント報告

日本バプテスト病院 8月のチャペルアワー



参加者
35名

8月27日(土)の午後、医療団職員同好会『ブラスターズ』10名による音楽のひとときを楽しみました。ウクレレを中心とした演奏に少し南国気分…。演奏にのって楽しく歌うことができました。



バプテストで働きませんか

京都の北東、北白川の地に静かにたたずむ緑多い環境の中で、全人医療の技に励む私たちとともに働きませんか

採用情報 <http://www.jbh.or.jp/saiyou1.html>

献金・献品 感謝ご報告

(2011.7.1~8.31) 敬称略

宮原 好美	河村 治	木谷 和枝	小島 由子
北村 薫	河島 実	井村 民枝	野口 真喜
山本 温子	野村 純世	井村 一久	田原 三男
田中 洋子	田中 愛子		

イベント予告

日本バプテスト病院 11月のチャペルアワー

日時：2011年11月16日(水) 15:15~15:40

出演：北村 謙氏による歌と演奏

会場：病院3階チャペル

日本バプテスト連盟医療団 12月の催し

「エレクトリカル・クリスマスショー」

日時：2011年12月8日(木) 19:00~19:40

出演：鈴鹿 隆之Dr.とすずりんクラブによる
音と光のファンタジー

会場：イマヌエルホール(看護専門学校1階)

「クリスマスコンサート」

日時：2011年12月24日(土) 14:00~14:40

出演：京都シティーフィル合唱団によるクリスマスソング

会場：イマヌエルホール(看護専門学校1階)

※催しは都合により中止・変更になる場合があります。

また、ご入院中の方のみのご参加にさせていただく場合もあります。ご了承下さい。

編集後記

初冬がきて、山並みの色づきもさらに鮮やかになってきた今日この頃です。桜咲く4月、若葉の5月、蝉の鳴声の夏、そして、紅葉の秋と、日本の四季の変化がはっきりわかるこの地でのお仕事に心が癒されます。新病棟ができて、はや一年。これからもより一層の各部門間のチームワークとコミュニケーション、情報の共有化が必要です。天高く馬肥ゆる秋。しっかり飲みケーションでコミュニケーションを図ります。(M.Y)

日本バプテスト病院の基本理念は全人医療です。

人間は「からだど、こころと、たましい」からなる全人格的な存在です。

当病院は、イエス・キリストの隣人愛に基づき、全職員がよいチームワークを保ち、専門的知識と技術を活かして、全人医療の業に専念します。

シャローム No.108 2011年11月発行 発行/日本バプテスト連盟医療団 発行人/理事長 山岡義生 編集/日本バプテスト病院広報委員会

この広報誌は日本バプテスト連盟医療団のはたらきを広くお知らせするために作成しております。

著作権、個人情報保護の観点から、流用・転載を固くお断りいたします。

日本バプテスト病院 <http://www.jbh.or.jp/>

バプテスト老人保健施設 <http://www.jbh.or.jp/roken/>

バプテスト眼科クリニック <http://www.eye-clinic.gr.jp/>

バプテスト訪問看護ステーション <http://www.jbh.or.jp/sisetsu/houmonkango.html>

バプテスト在宅ホスピス緩和ケアクリニック <http://www.jbh.or.jp/bhh/>

日本バプテスト看護専門学校 <http://www.jbsn-kyoto.com/>